

シンポジウム開催のお知らせ

「震災・原発報道の検証―「3.11」と戦後日本社会」

「おびただしい量の情報が飛びかう社会では、なにが真実か、どれを選ぶべきか、的確で迅速な判断が強く求められている。新聞の責務は、正確で公正な記事と責任ある論評によってこうした要望にこたえ、公共的、文化的使命を果たすことである。」これは「新聞倫理綱領」の一文である。「新聞」を「ジャーナリズム」に、「記事」を「ニュース」に置き換えれば、この一文は新聞、放送、ネット、いずれのジャーナリズムにも適用されるはずである。

東日本大震災が生じた「3.11」以降、日本のジャーナリズムはこの使命を十分果たしてきたのであろうか。震災・原発報道に関して反省すべき点はどこにあるのか。何が問題ある報道を生み出す要因だったのか。この震災を契機に、日本社会のこれまでのあり方が問われている。情報の共有という点で大きな役割を果たしてきた日本のジャーナリズムも、同様である。

今回、日本マス・コミュニケーション学会が主催する「震災・原発報道の検証―「3.11」と戦後日本社会」は、こうした問題意識を出発点としている。まず、浜田純一本学会会長の基調講演を通じて問題提起が行われる。それを受けて、4名のジャーナリスト・研究者によってパネル・ディスカッションが行われる。今回お招きしたのは、報道現場を熟知すると同時に、自らの仕事を含め日本のジャーナリズムを優れた眼で観察し続けてきたジャーナリストの方々であり、また日本のジャーナリズムに関して精力的に研究を進め、優れた研究成果をあげてきた研究者である。

多くの皆さんにぜひご参加いただき、震災・原発報道に関する問題提起や議論を通じて、日本のジャーナリズムに関して深く考えていただければと思う。

日 時：3月3日（土） 13時 - 17時 30分

場 所：東京大学 福武ホール

〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目3-1

<http://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp/access/index.html>

受付開始 12時 30分

総合司会 大石 裕（慶應義塾大学）

13時 - 14時 基調講演 濱田純一（学会会長：東京大学）

14時 10分 - 15時 30分 パネル・ディスカッション（第1部）

「東日本大震災報道の検証」

司会者：藤田真文（法政大学）
問題提起者：谷原和憲（日本テレビ）
討論者：マーティン・ファクラー
（ニューヨークタイムズ東京支局）
遠藤 薫（学習院大学）

15時40分 - 17時 パネル・ディスカッション（第2部）

「原発報道の検証」

司会者：小林直毅（法政大学）
問題提起者：上丸洋一（朝日新聞社）
討論者：マーティン・ファクラー
（ニューヨークタイムズ東京支局）
遠藤 薫（学習院大学）
谷原和憲（日本テレビ）

17時 - 17時30分 質疑応答